

意思決定支援に関する教育プログラムの開発

研究分担者 長島 文夫 杏林大学医学部腫瘍内科学 教授

研究要旨 意思決定支援に関する教育プログラムの開発を進め、議論を行った。特にグループワークにおける意思決定能力の評価方法、強化方法に配慮して準備を進めた。トリガービデオを作成し、看護師を対象としてトライアルを実施した。アドバンスケアプランニングについては、医学部学生及び研修医の教育資料として杏林大学医学部および附属病院において活用した。

A. 研究目的

治療方針決定や療養場所の選定などの重要な意思決定場面において、意思決定能力に基づく適切な支援をがん診療連携拠点病院において実現するために、介入プログラムを開発・検証し、その普及を図る。がん医療に携わる医療従事者（医師、看護師、MSW等）を対象に、意思決定支援に関する基本的な関わりを理解し実践するための教育プログラムを開発する。

B. 研究方法

研究代表者がこれまでに準備している教育支援プログラム（「高齢者のがん医療の質の向上に資する簡便で効果的な意思決定支援プログラムの開発に関する研究」（厚生科研）：平成29-令和1年）等をもとに、議論を行い、意思決定支援に関する教育プログラム開発を進めた。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

①これまでの予備検討からは、教育プログラムの有効性について、知識面での向上は確認されたものの、実際のアセスメントや支援方法については向上が乏しい（意思決定能力の評価方法や支援方法について理解していないことが伺われる）ことから、グループワークにおける意思決定能力の評価方法、強化方法に配慮して準備した。拠点病院で教育プロ

グラムを展開する予定であるが、多職種が参加することを前提に治療担当医、看護師、薬剤師、MSW等が効率よく参加できるよう議論を続けた。

トリガービデオを作成し、2022年2月に看護師を対象としてオンラインでトライアルを実施した。

②上記①の作成過程において、意思決定支援、アドバンスケアプランニングについて議論を重ねており、医学部および研修医向けの教育資料として活用を行った。具体的には、杏林大学医学部学生、附属病院初期研修医を対象に教育の補助資料として活用した。

D. 考察

グループワークの内容について議論が進み、プログラム作成を進めることができた。

E. 結論

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、教育セミナー等を学術集会や研修会として開催する場合、対面式で開催することは困難でWEB開催を与儀なくされている。AMED津端班「高齢肺癌患者に対する機能評価表を用いた多施設共同臨床試験」において、老年腫瘍学ワークショップを開催したが、工夫によりWEBにおいてもグループワークは実施できる手ごたえが得られている。本研究班での教育プログラムにおいても、WEB開催などを含め、効率よく展開できるよう準備を進めていく。また、日本がんサポーターズケア学会高齢者のがん

治療部会の協力を得て、教育プログラムの普及を行う。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

なし

学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。